

正福寺報

平成 27 年お盆号

臨濟宗 円覚寺派
住職 松原 行樹
TEL 045-811-3800
FAX 045-811-6304
shouhukuji@nifty.com

〒245-0053 横浜市戸塚区上矢部町 3 4 0

<http://shouhukuji.com/>

陰陽不到の処

正福寺住職

松原 行樹 ぎょうじゆ

「いんようふとうのところ」。「一片の好風光」(いっぺんのこうふうこう)と続きます。

陰と陽を相比べることなく、どちらにも偏ることがなければ、すばらしい景色となる、ということ です。

私たちは「陰と陽」「悪と善」「損と得」などと物事を二元的に捉えては迷い、そしてどちらかを選び好みすることに よって更に迷わねばなりません。詩人の高田敏子さんに、「樹の心」という作品があります。

花の季節を愛でられて
花を散らしたあとは
忘れられている さくら
忘れられて
静かに過ぎす樹の心を

学ばなければならぬ
忘れられているときが

自分を見つめ 充実させるとき
であることを 樹は知っている

さくらの花びらがハラハラとはかなく散るその姿は、花見の後の寂しさが一層漂います。そしてつぼみが再び膨らみ始める日まで忘れられるさくらは、一見老木のようにも見えます。しかしそうではなかったのです。さくらは人から愛でられても忘れられず、陽にも陰にも留まることなく、自分を見つめ、充実させていたのです。平生の日暮らしの中で、自分にとって都合のいいことも悪いこともあります。私たちもさくらのように、人生の陰陽に留まることなく、自分を見つめて充実させて花を咲かせ、好風光を届けたいものです。